

盛岡市遺跡の学び館編・発行『災害の歴史－遺跡に残されたその爪痕－』（第12回企画展図録、2013年）。
山本正昭ほか『嘉良嶽東貝塚・嘉良嶽東方古墓群』（沖縄県立埋蔵文化財センター調査報告書第50集、沖縄県立埋蔵文化財センター編、2009年）。

第2節 文化財担当者専門研修の取り組み

奈文研では、毎年、文化財担当者専門研修を実施し、様々な情報の共有と、先進的な知識・技術の網羅的な普及を目指している。その中で、平成25年度、および平成27年度に「災害痕跡調査課程」（環境考古学研究室：山崎健担当）が開催された。以下にその担当講師の名前と講義題目を列記する（敬称略）。

【平成25年度】

山崎 健（奈良文化財研究所埋蔵文化財センター環境考古学研究室・研究員）「災害痕跡調査課程のねらい」
寒川 旭（独立行政法人産業技術総合研究所 関西センター・招聘研究員）「地震痕跡」
藤原 治（独立行政法人産業技術総合研究所 活断層・地震研究センター・主任研究員）「津波痕跡」
早田 勉（（株）火山灰考古学研究所・所長）「火山灰」
趙 哲済（公益財団法人大阪市博物館協会 大阪文化財研究所・総括研究員）「第四紀学と考古学」
富井 真（京都大学文化財総合研究センター・助教）
「調査事例」
村田 泰輔（鳥取県埋蔵文化財センター青谷上寺地遺跡調査係・研究補助員）「津波堆積物における珪藻の有効性」

【平成27年度】

山崎 健（奈良文化財研究所埋蔵文化財センター環境考古学研究室・研究員）「概説」
三村 衛（京都大学大学院工学研究科・教授）
「地震痕跡」
藤原 治（独立行政法人産業技術総合研究所 活断層・地震研究センター・主任研究員）「津波痕跡」
早田 勉（（株）火山灰考古学研究所・所長）「火山灰」
杉山 秀宏（群馬県埋蔵文化財調査事業団）「調査事例」
趙 哲済（公益財団法人大阪市博物館協会 大阪文化財

研究所・総括研究員）「第四紀学と考古学」

田中 広明（埼玉県埋蔵文化財調査事業団）「調査事例」
富井 真（京都大学文化財総合研究センター・助教）
「調査事例」
村田 泰輔（奈良文化財研究所埋蔵文化財センター遺跡・調査技術研究室・アソシエイトフェロー）「災害痕跡 調査の現状と課題」

第3章 おわりに

第2章第1節で述べたことであるが、考古資料から抽出される災害情報とそのデータ化は、その重要性と有効性の反面、解決すべき大きな課題もある。その課題は大きく2つに分けて考えることができよう。1つめは、現在、あるいはこれから課題である。それは調査地からどのように災害痕跡を発見、検証、記録するかという点である。これは専門的な知識の共有化をどのようにしていくかがポイントとなり、奈文研の「文化財担当者専門研修」などは有効であり、このような取り組みが全国に広まることが重要であると考えている。

2つめは、過去の知の蓄積に対する課題である。これまでの膨大な蓄積情報について、「だれが」「どのように」「どこまで」データを整理、収集するのかという問題は、実は簡単には解決できる問題ではない。しかし、防災あるいは減災に向けた取り組みには極めて重要な作業であり、また文化財行政の新たな支柱の1つと成り得ることから、官・民・学の総合的な協力体制の元、着実に進むシステムづくり、体制づくりが必要となっている。